県民と郷土を結ぶ総合博物館

青森県立郷土館だより

News from the Aomori Prefectural Museum

通巻184号　令和5年（2023）12月15日　Vol.54　No.1

青森県立郷土館は、開館50年を迎えました

旧青森銀行本店外観（現郷土館・特別展示室・大ホール）

昭和46（1971）年 建築工事中の郷土館本館 正面側

開館50周年を迎えて

館長　白戸克幸

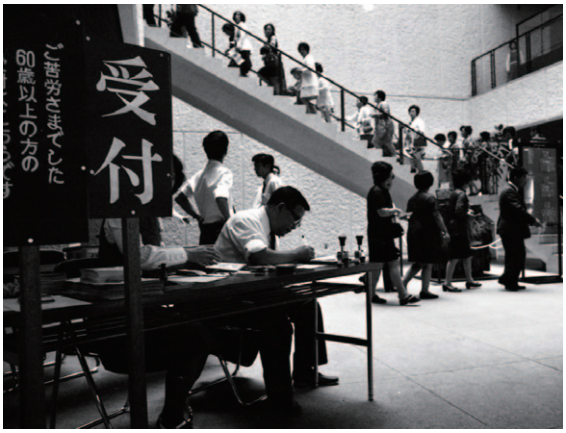
青森県立郷土館は、今年50年という節目を迎えました。昭和48年９月に開館して以来、県内唯一の総合博物館として、資料収集・保管に努めるとともに、本県の自然や歴史、文化について広く紹介するため、様々な展覧会や事業を行ってきました。

当館の役割は、これまでに収集した10万点を超える資料を確実に後世に伝えていくこと、また、それらの資料を効果的に活用して、多くの皆さんに青森の姿をより深く、多角的に理解していただくこと、さらにこうした活動を通して、特に若い世代の皆さんにふるさとに誇りを持ってもらうことなどが挙げられます。しかしながら、令和２年度から建物の耐震性能不足により長期にわたり休館を余儀なくされており、こうした役割が果たせないことを非常に残念に思っています。

現在は、館内での展示活動は行っていませんが、県立美術館と共催したサテライト展をはじめ、土曜セミナー、自然観察会、出前授業など館外での事業は実施しており、こうした活動を継続していく予定です。

今後は、当館が収集・蓄積してきた資料や研究成果を県民の皆さんに還元すべく、展示内容の充実に向けた検討をしっかり行いながら、当館の早期再開に向けた手続きを着実に進めて参ります。

開館予告ポスター



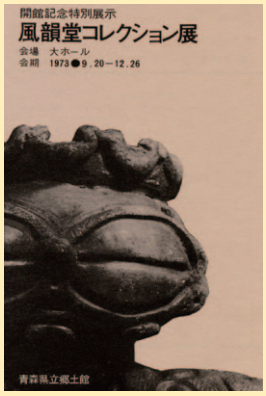
昭和48（1973）年9月21日 一般公開開始日

開館に向け、広く一般の方からの資料の寄贈を募った。同様のパンフレットやポスターが複数製作されており、開館時には約24,000点の資料を収蔵。

50周年記念サイトOPEN！

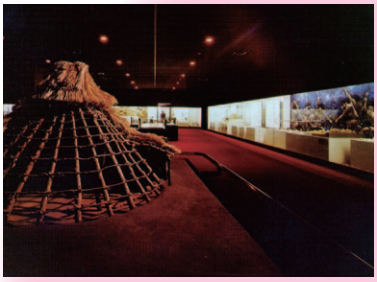
50周年の節目を迎えるにあたり、このたび「記念特設HP」を開設しました。当館の半世紀にわたるあゆみを単に追憶するだけでなく、みなさまからのお祝いのメッセージや郷土館での思い出など「現在の声」を募り、リアルタイムで組み入れてゆく、協働共創型のHPです。このHPが、過去50年の歴史を振り返り、現在をみつめ、そして「新しい時代の青森」を語りあい、展望する場となることを心から期待しています。

（50周年記念HP担当・増田公寧）



開館記念特別展・風韻堂コレクション展
昭和48（1973）年

開館時の各展示室



考古展示室

自然展示室

民俗展示室

歴史展示室

弘前市の長勝寺に安置されている津軽為信木像の複製製作作業の様子。展示に必要な複製資料等も多数つくられた。

特別展・青森県の100年
－世相の移り変わり－
昭和49（1974）年

特別展・地域総合展
『しもきた』
平成3（1991）年

◇キョドチャンネル◇
記念ムービー作成！

50周年を記念して開館当初の様子から各年度の企画展や最近の活動をまとめた動画を作成しました。休館中のため、現在の館内における活動の様子を動画で撮影できないのが編集担当者としての悩みの種でした。しかし、過去の事業活動の様子は、歴代の職員が撮りためた写真や映像記録を掘り起こすことで作成することができました。編集作業は、当館が様々な活動を通じてこれまで積み上げてきた年月の重みを感じるものでした。

郷土館50年の歴史を凝縮した記念ムービーをぜひご覧ください。（担当・片山卓思）

40周年記念特別展
平尾魯仙
～青森のダ・ヴィンチ～
平成25（2013）年

〈令和５年度〉

あおもり街かど探偵団報告
～浅虫を歩く～

絵葉書：（浅虫温泉名所）遊園地より湯の島を望む

あおもり街かど探偵団は、14年続く街歩きイベントであり、歴史的な建造物や遺構をたどりながら散策し、街の中に隠された歴史を学ぶというものです。毎年２回開催していますが、本年度はいずれも浅虫で開催しました。

第１回は「浅虫温泉と道」と題して、６月25日に開催しました。この回では、菅江真澄・竹久夢二等有名な人物の来訪と、鉄道・道路等に焦点を当て、いわゆる奥州街道や国道４号、東北本線という重要な交通路が通る場所に、様々な著名人が行き交ったことを説明しました。あわせて、浅虫が古くからの景勝地であること、また、土産物の久慈良（くじら）餅のはじまりについても紹介しました。

第２回は10月15日に「湯の町　浅虫の歴史」と題して開催しました。この回は、温泉場としての浅虫の歴史を中心に取り上げました。まずは、弘前藩主津軽信政が眼病にかかった際に病の平癒を祈願したという夢宅（むたく）寺を訪問しました。ここに祭られている薬師如来等、貴重な文化財を拝見しました。次いで、源泉公園に向かいました。源泉公園は足湯と卵をゆでる卵場、温泉のお湯が飲める飲泉場がありますが、元は「大ねつぼ」等の源泉が湧き出ていた様子が見える場所でした。現在、それらの源泉はこの公園の地下にあり、公園の隣にある大きなタンクを通じて各施設に湯が送られているそうです。そのあと、浅虫の人々が守ってきた浅虫公園と、製塩事業のほか浅虫の街の開発を行った米田（よねた）甚吉翁の碑などをめぐりました。

本年度の浅虫での街歩きを通じ、浅虫が実に豊かな歴史にはぐくまれた温泉場であり、また、地元の人がそれを大事に守り育てるために活動し続けているということを強く認識できました。これからもこの街が、我々の憩いの場所であり続けることを切に願います。

最後にこの街歩きを行うにあたって、ご協力いただいた方々に感謝を申し上げます。

（担当・佐藤良宣）

ゆうやけ橋から海を眺める（第１回）

夢宅寺山門（第２回）

西目屋村乳穂ヶ滝での様子

今別町高野崎での様子

自然の仕組みを総合的に学ぶ「自然観察会」

当館の自然観察会では、開催地に分布する動植物だけでなく、その生息環境の基盤となっている地形・地質についても観察の対象にしています。参加者からは、大地を造る岩石・地層と地形の関係、それぞれの環境下に生育する動植物など自然の仕組みについて総合的に学ぶことができて良かったと毎回好評です。

今年度の自然観察会は、7月2日（日）に西目屋村の目屋渓谷、10月1日（日）に今別町の高野崎（たかのざき）で開催しました。目屋渓谷では、白神山地から流れ下る岩木川沿いを散策しながら、渓谷を造る岩石や谷壁を流れ落ちる乳穂ヶ滝（におがたき）、初夏の花々を観察しました。高野崎では、岬を造る岩石や海辺の植物、岩礁に生息する海の生物を観察しました。また、自然観察に加えて関連する歴史的・民俗的要素も盛り込み、江戸時代の旅の記録との比較や現在まで続く信仰など、自然と人とのかかわりについても紹介しました。

（自然担当・島口天）

新収蔵資料紹介

蓑虫山人（みのむしさんじん）筆　陸奥全国古陶之図屏風（むつぜんこくことうのずびょうぶ）

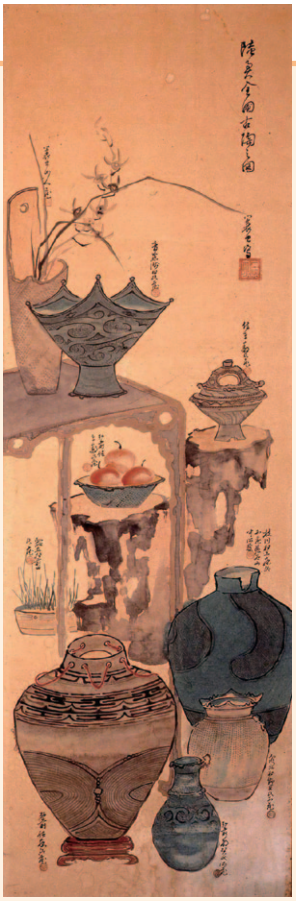
幕末から明治期半ばに活動した画人・蓑虫山人（土岐源吾（ときげんご）・1836～1900年）が描いた屏風です。青森県滞在中に実際に見たり、集めたりした土器や土偶等を描いたこの「古陶之図」六曲屏風と石器関係で構成した「神代石之図（じんだいせき）」六曲屏風で一組になっています。同様の画題、構図で描かれたものは現在のところ県内でのみ確認されています。

岐阜県安八郡に生まれた蓑虫は、10代半ばに故郷を出て、南は九州、北は青森県下北地方までを巡り、絵を描いたり、庭を手がけたりして放浪生活を続けました。そのため、訪問先に多くの絵画やゆかりの庭園が残されています。

そんな彼には、大きな夢がありました。実際に見聞したことや集めたものを用いて、各地の自然や歴史を紹介する施設をつくるという夢です。現在の博物館のようなものを考えていたようですが、残念ながら実現させることはできませんでした。

彼が青森県の名所旧跡、文化人を訪ね歩いたのは明治10年代のことです。豊かな自然景観や多彩な考古資料は、放浪の画人の心をとらえました。遺跡を発掘したり、自ら描いた絵画や収集物を並べて展示会を行ったりして、地域の人々とも積極的に交流しました。こうした活動の中でこの屏風は描かれたと考えられます。それぞれ所蔵者名も記載されており、青森県考古学史においても重要な資料といえます。

（歴史担当・太田原慶子）



「陸奥全国古陶之図屏風」部分／紙本着色
親交のあった黒石市の旧家に伝わったもの

総合博物館　青森県立郷土館だより　Vol.54　No.1　通巻184号　2023.12.15

【編集・発行】青森県立郷土館
〒030-0802　青森市本町二丁目８－14
【TEL】017－777－1585
【FAX】017－777－1588

ホームページ　ブログ